

# 堺IPC PRESS

SAKAI CITY  
INDUSTRIAL  
PROMOTION CENTER

2022.7  
VOL. 64

企業を元気に、情熱系経営マガジン

## 「続く」極意

ブラジリアン柔術の魅力を  
さらに広く多くの人へ  
インパクト大阪  
萩原ハファエルさん

## SAKAIの傑作

かゆいところに手が届く  
システムの提案を  
株式会社阪南ビジネスマシン

SPECIAL FEATURE

人を大切にする経営で、  
いい会社を実現する。

太陽パーツ株式会社 / シャープ化学工業株式会社 / 有限会社関西貿易



# 社員の成長が企業の成長へ 取り組み姿勢やプロセスを評価

太陽パーツ株式会社  
代表取締役 城岡 正志  
営業部次長 神田 孝

堺市産業振興センターでは、2019年度から「どこから見ても誰から見てもいい会社」の作り方を学ぶ「ものづくり経営大学」を開催しています。今回3年間の受講を修了し、「堺の大切にしたい会社」に認定された3社に、「いい会社」についてお話をうかがいました。

.....

## 特許技術のダイカストシステムや ワンストップでの部品供給が強い

「メーカー機能と商社機能を併せ持つ技術集団」として多彩な加工技術を駆使し、教育機器分野やロボットの分野、健康医療分野など幅広い分野で製品開発を行っている太陽パーツ。なかでも同社の強みとして特筆すべきは、特許技術である「ダイカストカセットシステム」です。カスタマイズされた小さな金型を土台となる共用金型に入れるため、金型費が従来の約半分で済む上に、小ロット多品種にも対応できます。また、部品供給については開発から設計、試作、量産、加工、組み立て、検査までワンストップで提供できる体制を確立していることも同社の大きな強みといえるでしょう。

同社は創業者の城岡陽志会長が、業務で果敢に挑戦した結果、大失敗に終わっても会社に教訓やノウハウ

を残したのなら表彰しようと設けた「大失敗賞」など、ユニークな評価制度がメディアにも取り上げられてきた企業です。改めて「ものづくり経営大学」を受講された理由を城岡正志社長にうかがいました。

「ものづくり経営大学がスタートしたのは、社長に就任した2020年のちょうど1年前で、その時は当社をどういう会社にしたいかまだ定まっておらず、「いい会社」とはどういうものなのか学びたいと思いました。以前から尊敬していた企業経営者の方々が講師を務められるということも受講を決めた理由です」。

## 大失敗しても目立たない業務でも 従業員の頑張りを正當に評価

「ものづくり経営大学」で非常に面白かったのは、「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞受賞企業を訪問したことだったと城岡社長。現場を見ると、どの会社もいかに働く人を大切にしているかが一目瞭然だったと語っています。

「どの企業も『社員ファースト』を謳っていたことが印象的です。正社員だけでなく、パートも含む全従業員を大切にしたら結果、従業員の皆さんが主体的に努力して成果を上げていました。当社では創業来、顧客第一を掲げており、それは今後も変わ

ることはありませんが、『社員の幸せ』も大切に、やり甲斐を持ってもらうことが何より大事だと思えました」。

約30年前から半期に一度発表される「大失敗賞」は、かつて新規事業を立ち上げようとして失敗し多額の損失を出した社員に対し、前向きに挑戦した結果なのだから笑い飛ばして次に進もうと設けられたものだから。最近でも注文が集中して忙しいなか、得意先の納期を厳守するために協力会社に発注したところ不良品を出したケースで、「品質の確認を怠ったことは大失敗だが、納期を守ろうと努めたことを評価する」と「大失敗賞」が授与されています。こうした評価制度は、自分で考え行動する人材育成につながっていると

いえるでしょう。また、目立たなくても仕事に取り



営業担当との打合せ風景。専門知識を生かして最適な製造方法に導く提案力も強い。





# 残業を減らしながらも 利益を確保できる企業へ

シャープ化学工業株式会社  
代表取締役社長 村上 幹男  
取締役工場長 永江 弘武

**新社屋の立ち上げのタイミングで  
若手社員と「いい会社」づくりを**

建築現場で使われるシーリング材や防水材、接着剤を製造販売しているシャープ化学工業。昨今の多様なカラーリングのニーズに応え、業界最多の70色の調色に対応したシーリング材の特注生産のほか、一般消費者にも馴染みのあるDIY・補修材など、独自の開発力で幅広く製品を展開しています。

「いい会社」づくりについて、同社ではこれまでも村上幹男社長の「失敗してもいいから、何でもやってみる」という方針で、さまざまなことへのチャレンジを許してきた風土があります。4年に1回開催される「世界接着剤・シーリング材会議」でのプレゼンターにも若手を積極的に起用し、社員の成長を促してきました。「ものづくり経営大学」にも、これからの現場を担う社員にこそ学んでほしいと2年目から若手社員を参加させています。

今回の受講を決めた永江弘武取締役工場長は、その理由を「ちょうど新社屋が立ち上がり、事業も拡張していこうというタイミングでの開講でした。生産現場が忙しくなるなかで、このままではうまく回らないのではないかという心配もあり、ま

た、世間で言う『いい会社』とはどのような会社なのかという興味もあって受講を決めました」と話しています。

永江工場長が「日本でいちばん大切にしたいいい会社」を見学して驚いたのは、訪問した企業ではほとんど残業がないことだったと言います。すぐさま「いかに仕事量を減らすか」つまりは「生産効率の向上」が経営陣の課題となりました。

「事業を見直す良いきっかけになりましたね」と村上社長。「これまで利益は出ていないけれど、創業時からの付き合い合いで製造し続けてきた製品などがありました。それらは、環境負荷が大きく、今となっては当社に特長のない製品となっていくことから、昨今の環境意識の高まりも考慮し、製造を廃止する決断をしました」。

## 積極的に推進したDXもまた 残業時間の低減に

製造現場の機械化や自動化はもちろん、DX（デジタル・トランスフォーメーション）にも積極的に取り組んでいます。具体的には、クラウド型グループウェアサービスの導入で生産管理や納期管理などの情報の共有化、作業手順書などのペーパーレス化など、自分で考え判断で



2022年に行われた「世界接着剤・シーリング材会議」のプレゼンにも若手社員を起用。



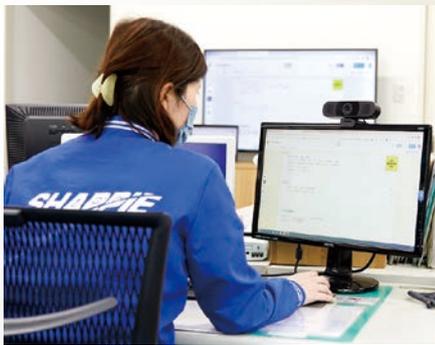
きるだけの情報をすぐに取り出せるようシステムを整備したことで、業務のスピードアップが図られたとか。これもまた、残業時間の低減につながっています。

一方、組織づくりでは、かねてから特定の社員に仕事が集まることに課題になっていました。その人しかできない仕事があることは会社としてもリスクであり、バックアップ体制を確立するために整備したのが新たな評価制度です。

「職務のマトリックスのようなものを作成し、どの業務にどのような作業があるかを洗い出しました。そして、それぞれの作業のできる、できないを各自で明確にし、半期ごとに自分で目標を立てて、個人面談でどれだけ達成できたかの評価を行っています」と永江工場長。もちろん、評価するばかりではなく、達成する



各自が持つタブレットで現在の生産数の確認や製造日報などの情報共有を行っている。



受注案件の生産管理や納期管理はもとより、社員のスケジュールも一元化されており、誰もがいつでも見ることができる。

村上幹男  
代表取締役社長

永江弘武  
取締役工場長



ための教育にも注力すべく、現場の補助に外部人材を活用し教育時間を確保しています。

ユニークなのは、5日連続の有給休暇の取得で土日を含む連続9日間の休暇を奨励する「計画休暇制度」です。社員のモチベーションアップが一番の目的ですが、これによって、業務の調整のための社員間のコミュニケーションが活発になると、特定の人しかできない領域がなくなるといった効果も得られています。

**社員が自分で考え行動できる「いい会社」の組織づくりへ**

最近、社員一人ひとりのテリトリーを広げてもらおうと、組織の枠も外し始めた村上社長。それによって、例えば、海外事業部は英語の話せる人間しかできないから、自分には無理という概念を取り払ってもらいたいと考えています。

そして、今春から新たにスタートさせたのがチーム制です。ホームセンターや産業用といった市場分野別に大きく4つのチームに分け、それぞれに開発担当、製造担当、営業担当の社員を振り分けています。

「チームに分けることで全員に当事者意識を持ってもらうことが狙いです。チームで情報を共有するため、これまでは営業から伝えられた得意

先の要望のままに製品を開発・製造していましたが、製造部門からコストや時間が低減できる製法などが提案されるようになればと考えています」と永江工場長。そうして改善しようとしたことは、成功すれば「提案賞」や「やったで賞」などで表彰され、失敗してもチャレンジ精神を失って欲しくないと「お笑い失敗大賞」が授与されるそうです。

最後に「いい会社」づくりに取り組む意義について村上社長は、「アメリカで開催された国際学会のオープニングセッションで、世界のトップメーカーのCEOが人材育成の重要性を説いていました。IT産業などに人材が流れがちで、化学産業における人材不足は世界が共通して抱えている危機感です。だからこそ、この業界を選んでくれた人材を大切に育てるべく『いい会社』であることが重要なんです」と語っています。



**シャープ化学工業株式会社**

代表者名/代表取締役社長 村上 幹男  
本社/堺市西区築港浜寺西町12-1  
TEL/072-268-0321  
設立/1960年創業 1965年設立  
資本金/9,200万円  
従業員数/67名  
事業内容/シーリング材・接着剤・防水剤の製造販売、工事関連商品の仕入販売、輸出入



シャープ化学工業(株) ホームページ



# 従業員の心身の健康が 優れたものづくりに不可欠

有限会社関西貿易

代表取締役 森 勲

取締役部長 阿波 彰太

「社員の幸せを願う」ことを  
経営方針の第一に掲げて

農業機械や自動車などの幅広い分野で、産業機械の設計から製作、さらには据付、メンテナンスまでの一貫したものづくりで強みを発揮する関西貿易。経営理念に大きく掲げているのは「すべてが幸せになるための会社づくり」です。そして、それに基づく経営方針の第一とするのは、「社員の幸せを願う誠実な企業」で、そこには森勲社長の「ものづくりは人づくり」という考えがあります。

「ものづくり大国と言われた日本ですが、今では先進国の中でも遅れを取っていると思っています。しかし、堺市内にも優れた技術を持つ企業がまだまだたくさんあり、そうした会社と一緒に、もう一度ものづくり大国・日本を復権させたい。そのために大切なのは、そこで働く人たちの心身の健康だと考えています」。実際、具体的な取り組みが評価され、「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として、「健康経営優良法人2022」に認定されています。

森社長が従業員を大切にしている経営を始めたきっかけは、創業してまもなくから参加した経営者の勉強会で

した。「業績も安定している良い企業の経営者に共通していたのは、従業員を大切にしていることでした。そこに感化されたのです」。

若い世代が無理なく仕事を覚えられるよう、現場での作業にPDCA（計画↓実行↓評価↓改善）を導入したり、技術の習得レベルをオープンに評価する社内検定制度を設けたりするなど、これまでも従業員が安心して働ける環境づくりに注力してきました。

## 日本のいい企業を訪問して、 経営理念の重要性を再認識

森社長が堺市産業振興センターの「ものづくり経営大学」の受講を決めた一番の理由は、講師の一人が『日本でいちばん大切にしたい会社』などの著書で知られる坂本光司氏だったからでした。

「坂本先生の著書は何冊も読んでおり、直にお話をうかがえるというので、すぐに受講を決めました。そして、『日本でいちばん大切にしたい会社』大賞の受賞企業を訪問できたのは、大変勉強になりましたね。現場の雰囲気や、そこで働く従業員の方々の言動、姿を実際に見て、本当に従業員を大切にされていることがよくわかり、経営者の理念は現場に色濃く反映されるものなんだとい



外国人材が多く活躍する同社では、近くベトナムに現地法人を設立する計画だ。

うことを改めて実感しました」。森社長とともにものづくり経営大学を受講した阿波彰太取締役部長もまた、経営理念は毎日の唱和など日々の積み重ねで少しずつ浸透させることで、ようやく企業の風土になることに気づかされたとか。さらに、こうして外に出て他の会社を見学することの重要性も再認識したと話しています。

「当社が参加している大阪ものづくり研究会（OPPS）でも、参加企業が互いに現場を訪問し、改善すべき点を指摘し合ったり、改善内容を発表し合ったりという活動を行っています。『日本でいちばん大切にしたい会社』を訪問したことで、自社の現場では慣れて見落としがちなこと気づかされたり、刺激ももたらったりできる意義を改めて実感しました」。



森勲  
代表取締役

さまざまな業界の製造現場で効率化や省人化に貢献する生産設備の製作に設計から携わっている。



CADを使って製品の設計を行う女性社員たち。



阿波彰太  
取締役部長

**将来的には障がい者の雇用も  
誰もが働きやすい会社を目指して**

関西貿易では、朝礼や3S、IT、社内イベントなどの各テーマについて、従業員が主体的に取り組む委員会活動を行っており、阿波取締役部長の言うO.P.Sの活動もその一つ。この頃では、見学者へのホスピタリティも高まって、ウエルカムボードを作ったり、メモを取りやすいようにボールペンをセットしたバインダーを用意したりといったことを、社員が自分たちで工夫しているそうです。「ものづくりは、もはやサービス業です。使う人の身になって考えることが大切で、当社では笑顔で、相手の目を見て話を聞いたり話したりするように日頃からコミュニケーション力の向上に努めています。お得意先の要望を聞き出そうと思うと、高いレベルでコミュニケーションできる技量が求められますから」と森社長。こうした取り組みが、得意先の満足度が高い同社のものづくりにつながっているようです。

外国人材を積極的に活用し、今後は女性従業員の比率も高めていきたいと森社長。「工場内が美しく女性が多く活躍しているヨーロッパの自動車メーカーなどの企業は、やはり良い製品を作っています」。

そして将来、新たに取り組んでいきたいのは障がい者の雇用だそうです。「それができれば、誰にとっても働きやすい会社だということですから」。

社内の風通しを良くするために導入した社内コミュニケーションツール「SONR」を活用し、社員の予定などの情報を全社で共有しているほか、社員旅行やバーベキュー大会、フットサル大会、目標達成祝賀会といったさまざまな社内イベントを通じて、社員同士の交流も図っています。

「『いい会社づくり』は一朝一夕にできることではありませんが、まずは、強い『思い』を持つことからですよ。それがなければ、何も始まりません。『日本でいちばん大切にしたい会社』とは、その会社の力が最大限に生かされていることであり、大きな強みだと思っています。当社ではこれからも、そうした経営を目指していきます」と力強く語っていました。

**堺の大切にしたい会社認定**  
Sakai City Industrial Promotion Center

**有限会社関西貿易**

代表者名/代表取締役 森 勲  
本社/堺市中区土塔町2158-1  
TEL/072-230-3987  
設立/1996年設立  
資本金/1,000万円  
従業員数/21名  
事業内容/産業機器の設計・製作、金属・鋼材・表面・熱処理などの各種加工、試作品設計・製作など



(南)関西貿易  
ホームページ

## 令和4年度 中小企業経営学舎(旧 ものづくり経営大学)のご案内 ～「どこから見ても誰から見てもいい会社」のつくり方を学ぶ講座～



中小企業経営学舎(旧 ものづくり経営大学)は、八方よし※1を実現する会社を「いい会社」と定義し、最終的にはどこから見ても、だれから見てもいい会社の基礎を作ること为目标に令和元年度以降開催してきました。本年度も内容を充実させ、様々な業種の企業様を対象に開講予定です。

※1 八方よしとは、1社員、2社員の家族、3取引先社員、4取引先社員の家族、5お客様、6地域・社会、7経営者、8株主を指します。

特に、いい会社づくりを先んじて実践しているモデル企業※2を訪問もしくは経営者による講話により肌感覚で学べる機会と経験・知見を豊富に持つ講師(「人を大切にする経営学会」会長 坂本 光司氏他)によるレクチャーの機会を用意し、いい会社をつくる為の「あり方」と「やり方」の両方をバランスよく習得できるプログラム構成となっており、3年間受講し所定の基準をクリアした企業を「堺の大切にしたい会社」として認定し、そこから更に日本でいちばん大切にしたい会社大賞※3を受賞できるレベルのいい会社づくりを目指していただきます。

※2 モデル企業例 HILLTOP(株)、伊那食品工業(株)、中田工芸(株)、東海パネ工業(株)、藤井電機(株)他多数  
※3 日本でいちばん大切にしたい会社大賞 <https://www.htk-gakkai.org/a0013/MyHp/Pub/>



別途、受講企業の個別フォローや補講も用意し、いい会社づくりに向けた取り組みの徹底したサポートを行います。開講は9月下旬～10月上旬頃、受講者の募集は8月上旬頃開始予定です。講座への申し込み及び講座詳細は本年度の講座内容が確定次第ホームページに掲載します。

令和元年度以降実施した講座については下記から確認いただけます。

**堺の大切にしたい会社認定**  
Sakai City Industrial Promotion Center

令和3年度講座  
<https://www.sakai-ipc.jp/bizsupport/humanresources/monodai/r3.html>



令和2年度講座  
<https://www.sakai-ipc.jp/bizsupport/humanresources/monodai/r2.html>



令和元年度講座  
<https://www.sakai-ipc.jp/bizsupport/humanresources/monodai/r1.html>



お問い合わせ先 公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課  
TEL : 072-255-6700 FAX : 072-255-1185 Email : keiei\_shien@sakai-ipc.jp

## 福利厚生制度のご案内

～コストを抑えて、豊富なサービスが利用できます～

市内事業所で働く皆さまに、福利厚生サービスを非営利で提供します。慶弔給付や健康診断補助をはじめ、宿泊補助、ゴルフ場利用補助、各種チケットや商品の割引あつ旋など、余暇活動も幅広くサポートしています。また民間福利厚生代行最大手ベネフィット・ワンが提供するベネフィット・ステーションのメニューもご利用いただけます。

- 入会金：500円/人 月会費700円/人
- 入会対象：堺市内に事務所・店舗・工場等がある従業員数300人以下または資本金3億円以下の事業所
- 入会形態：事業所単位



SCKキャラクター  
エッシーくん



お問い合わせ先 堺市産業振興センター 勤労者福祉サービス課 (愛称：SCKサービスセンター)  
TEL : 072-255-1515 FAX : 072-255-5151 Email : kousei@sck.or.jp

# 堺優良従業員・堺技能功労者表彰の募集

堺商工会議所と堺市では、優秀な従業員・功労ある技能者を顕彰するため、共催表彰を10月13日（木）に開催します。対象となる従業員・技能者を、7月1日（金）から8月1日（月）までに同会議所へ推薦してください。審査あり。  
**推薦登録料** 1名（グループ） 3,300円。

表彰対象者は次のとおり。いずれも過去に②③は過去5年以内に同表彰を受けた方を除きます。

## ▶堺優良従業員表彰

- ①永年表彰（10・20・30・40年表彰（以降10年毎に表彰））＝勤続年数が10年以上で、企業の業績に貢献した方や成績が特に優秀な方（各表彰の受賞は一度のみ）。
- ②功労者表彰＝特に功労があり、企業の業績に貢献した方や他の従業員の模範となる方。
- ③産業ルネサンス表彰＝独創的なアイデアや新しいソフト等により、地域振興、地域経済の再生・発展に著しく貢献された方又はグループ。

## ▶堺技能功労者表彰

堺市内で勤務し、15年以上同一の職に従事している方で、技術の研鑽や後進の指導育成に努め、優れた技能が他の模範と認められ、業界団体等から推薦をうけた方。

詳しくは堺商工会議所ホームページでご覧になるか、下記連絡先までお問い合わせください。



**お問い合わせ先** 堺商工会議所（TEL：072-258-5502 FAX：072-258-5580 ホームページ：http://sakaicci.or.jp/）か  
 堺市雇用推進課（TEL：072-228-7404 FAX：072-228-8816）

# 堺市中小企業活力強化資金融資（有担保）のご案内

●当センターが債務保証を行う「堺市中小企業活力強化資金融資（有担保）」について、下記のいずれかに該当する方が当該融資を利用する場合、**貸付金利の優遇（年1.4%→年1.0%）**及びその**保証料について堺市が全額を負担する制度**を実施しています。

1. **申込期間** 令和5年3月31日（金）まで
2. **対象者** 原則として同一場所で6ヵ月以上引き続き事業を営んでいる中小企業者が堺市内で設備投資を行う場合で下記のいずれかに該当する方
  - ①中小企業庁のBCP基本・中級・上級コースのいずれかを策定し、自然災害発生時に業務を継続するための設備投資を行う方
  - ②成長産業分野（環境エネルギー・健康医療・IoT / IT）やIoT / IT技術の導入、DX推進にかかる設備投資を行う方
  - ③堺市の地場産業を営む事業者（自転車又は自転車部分品の製造・刃物の製造・敷物の製造・線香の製造・昆布の加工・繊維の染色又はさらしを行う事業者）で当該製品の製造又は加工のための設備投資を行う方
3. **貸付金利** 年利1.0%（通常1.4%から▲0.4%）
4. **保証料** 堺市が全額を負担
5. **受付場所** 当センター金融支援課で融資相談を行い、融資の申し込みを行ってください。

\*詳しくは、堺市のホームページをご覧になるか、取扱金融機関や堺市産業振興センターまでお問い合わせください。

**お問い合わせ先** 公益財団法人堺市産業振興センター 金融支援課 〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5  
 TEL：072-255-8484 FAX：072-255-5162（融資お客様専用フリーダイヤル）0120-072-232  
 堺市HPアドレス：http://www.city.sakai.lg.jp/ から「堺市中小企業融資制度」で検索してください。

# 貸会場のご案内「イベントホール・セミナー室・会議室」

イベントホールをはじめ、コンベンションホール、大小会議室、セミナー室、小ホールなど、幅広く対応可能な14会場をご用意しております。会議、研修会、講演会、展示会、パーティなど様々な用途でご利用いただけます。空き状況はインターネット上（堺市施設予約システム）でご確認いただくか、お電話でお問い合わせください。

- 【利用時間】 9:00～21:00
- 【休館日】 年末年始（12月29日～翌年1月3日）
- 【駐車場】 約230台（無料）
- 【最寄り駅】 中百舌鳥（なかもず）駅から約300m

**お問い合わせ先** 堺市産業振興センター 貸会場申込窓口  
 TEL：072-255-0111 ホームページ：https://www.sakai-ipc.jp/



イベントホール（展示会形式）



セミナー室3（スクール形式）



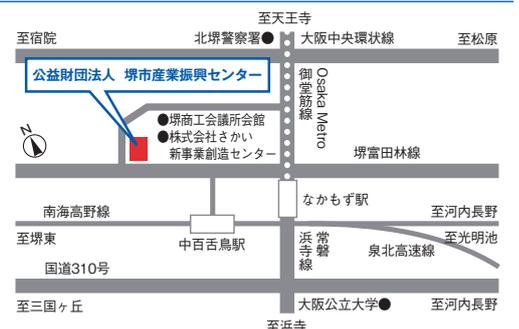
ミーティングルーム（会議形式）



## 中小企業を全力応援 公益財団法人 堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、福利厚生事業、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5  
 TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200  
<https://www.sakai-ipc.jp/>



●南海高野線中百舌鳥駅より約300m ●Osaka Metro御堂筋線なかもず駅より約300m ※駐車場は、隣接の来客用駐車場（無料）がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

# 継ぐ 極意

さまざまな事業承継の  
ありさまをご紹介します

## ブラジリアン柔術の魅力を さらに広く多くの人へ

萩原 ハファエルさん



(萩原 ハファエルさん)

(萩原 ウェルソン光明代表)

### インパクト大阪

堺市堺区中安井町3-4-25  
TEL.090-9167-1998

代表者名/代表 萩原 ウェルソン光明  
設立/2014年設立  
従業員数/3名  
事業内容/ブラジリアン柔術の指導



インパクト大阪  
ホームページ

日本人の祖父を持つ萩原ウェルソン光明代表が1994年来日。ブラジル人のコミュニティのあった堺市で、ブラジリアン柔術の同好会を作ったのをきっかけに、2014年にインパクト大阪を設立。レベル別の大人向けプログラムのほか、キッズクラスも設けている。



## ブ

ラジリアン柔術の「柔術」とは、もともと日本古来の武術で、私たちに馴染み深い柔道もこの柔術から生まれたものです。

ブラジリアン柔術は、一人の日本人によってブラジルに伝えられた柔術が独自のスタイルを確立したもので、寝技を主体とする格闘技です。多彩な技を組み合わせて闘うことから「身体を使ったチェス」とも称され、「それがブラジリアン柔術の魅力」とインパクト大阪の萩原ウェルソン光明代表は語っています。

格闘技といながら寝技の攻防が中心のため、ケガの危険性が低く、筋力アップやダイエット、アンチエイジングといった効果も期待できることから、今では性別を問わず幅広い世代の人が入会しており、多い時で150人ほどの会員を抱えるまでに教室も成長しています。

現在、萩原代表とともに指導に当たっている萩原ハファエルさんは、父の影響で10歳から柔術を始めたといい、ゆくゆくインパクト大阪の経営を承継する予定です。

「教室の運営を担っていた方が2年前に独立してから、生徒さんの管理やPRを手伝うようになったことで、教室の経営というのを意識するようになりました。承継はまだ先の話で実感はありませんが、父がこの教室でブラジリアン柔術やこの教室に通う楽しさを伝えてきた今のスタイルは変えることなく継承したいと思っています。一方で、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大で大きな影響を受けました。安定した事業運営という面で、他の事業とのコラボレーションも模索していきたい」と抱負を語っています。



新しいコンセプトのデザイン&プリントショップ【夢咲き事業部】。



自社が販売したものは自社でメンテナンスする。そのこだわりは創業当時から。



上野社長

# SAKAIの傑作

## かゆいところに手が届く システムの提案を

昔懐かしい木造校舎の教室のような「一年一組 静塾」と名付けられた一室で、モニターの画面を見つめているのは、阪南ビジネスマシンのシステムエンジニアたちです。顧客の業種・業態・業務内容などに応じて、パッケージソフトをカスタマイズしたり、あるいはゼロからオリジナルでシステムを構築する「スクラッチ開発」を行ったりしています。

同社の強みは、顧客へのヒアリングから開発、設計、納期管理、さらに運用後のフォローまでを一人のエンジニアで完結させている点で、これにより問合せなどへのレスポンスが非常に早いことや、「かゆいところに手が届く」きめ細かい対応に顧客から高い評価が寄せられています。

同社がこの事業を立ち上げたのは数年前。それまでは、こうしたニーズに外部の協力を得て応えてきましたが、より顧客満足度を高めようと自社で企画・開発することになったとか。当初は新しく採用したベテランのシステムエンジニアのもとシステム開発の知見を深め、さらに自社で使用するシステムの試作などを重ねることで経験値を高めたといいます。今ではコストの低減や納期の短縮などにつながる提案も含めて、同社が掲げるトータルソリューションの一翼を担っています。

## 株式会社阪南ビジネスマシン

官公庁や文教市場などへ複写機や印刷機の販売・保守を行う事業で、1971年に創業。その頃からの「常にお客様の期待を超えていますか」の事業精神で、現在は特定のメーカーにとらわれないマルチベンダーとして顧客にとって最適なIT機器の販売から、システムやネットワーク環境の構築、セキュリティの企画・設計、さらにはメンテナンスまでのサービスをワンストップで提供するITソリューション企業として強みを発揮しています。

顧客の業務内容を熟知した営業担当が技術的なサポートまでも含めたコンサルティングを行っており、以前には未知のウイルスに感染された得意先で3日3晩休まずに対策を施したこともあったとか。今後はデスクワークの業務を自動化するソフトウェアロボットに注力するほか、営業エリアを近畿一円に拡大する計画です。

代表者名/代表取締役 上野 晋作

本社/堺市中区深井北町3275

TEL/072-277-0855

設立/1971年設立

資本金/4,000万円

従業員数/120名

事業内容/オフィス機器

の販売・リース・メンテナ

ンス、ネットワーク環境の構築・保守、ソフト

ウェア・システムの構築、デザイン印刷、Web

サイト作成、オフィス用品WEB通販 など



株式会社阪南ビジネスマシン  
ホームページ

堺に活気を、ものづくり応援マガジン



SAKAIの傑作

かゆいところに手が届く  
システムの提案を

株式会社阪南ビジネスマシン

記事は次ページへ続きます▶▶

2022年6月末~9月末頃まで堺市産業振興センター1F「さかいモノてらす」で展示予定